

Costume and Textile

No.32

服飾文化学会会報

2016年9月

会長就任にあたって

能澤 慧子

前期に引き続き、平成28・29年度の会長に就任いたしました。信頼を寄せていただきました方々に感謝申し上げます。ご期待を裏切らないよう、お役目を果たして参る所存でございます。



26・27年度は会長と事務局を合わせてお引き受けしましたおかげで、学会活動の全般を視野に入れることができました。その中で、例えば庶務ご担当の理事は、学会員の宛名を常に管理し、年に6、7回、宛名シールを作成しています。これが大会、論文発表会、夏期セミナー、研究例会、事務局などの各担当理事に送られ、それぞれがその宛名シール約260枚を1枚ずつ封筒やはがきに貼って、印刷物やお知らせを発送しています。「理事」という言葉の響きとはかなり隔たりのあるこうした細かな作業によって、学会活動は支えられています。この努力を無にしないよう、多くの方々のご参加を切に望むところです。

他方、国内大学の服飾系学科の入学志願者数の低迷はいまさら言うまでもありませんが、このことはこの分野の教員数の低迷に繋がり、学会の盛衰にも影響を及ぼすことが懸念されます。この分野の社会への情報発信や同系の学会との連携も必要と考えます。その一つの方法として、学会誌掲載論文のホームページへの全文掲載は昨年度から検討中です。日本学術会議と生活科学関連学協会生活科学系学会のコンソーシアムも一つの機会になればと考えます。

学会の未来につながる新工夫について、学会員の皆様のご提案とご意見を心よりお待ちしております。

役員改選について

2015年12月より選挙管理委員会による役員改選の準備が始まり、本年1月23日消印有効で受理した投票用紙を2月6日開票。2016、2017年度理事27名と監事2名が選出されました。また、第1回理事会において能澤慧子氏が会長に選出され、役員の担当は以下の表のように決まりました。

2016・2017年度 服飾文化学会役員

担当	氏名	所属
総務 会長 副会長	能澤 慧子	東京家政大学
	大網 美代子	大妻女子大学
	岡田 宣世	女子美術大学
財 務	長田 美智子	鎌倉女子大学
	大塚 有里	東京家政大学
事 務 局	能澤 慧子	東京家政大学
庶 務	鈴木 桜子	杉野服飾大学
	塚田 耕一	杉野服飾大学
	富田 弘美	東京家政学院大学
総会・大会	長崎 巖	共立女子大学
	田中 淑江	共立女子大学
	宮武 恵子	共立女子大学
	福田 博美	文化学園大学
	水谷 みつ江	文化学園大学
夏期セミナー	柳原 美紗子	(財)日本綿業振興会
	大網 美代子	大妻女子大学
	中川 麻子	大妻女子大学
論文発表会	福田 博美	文化学園大学
	伊藤 瑞香	和洋女子大学
	能澤 慧子	東京家政大学
研 究 例 会	藤田 恵子	東京家政学院大学
	岡田 宣世	女子美術大学
	新實 五穂	お茶の水女子大学
学会誌編集論文編	須藤 良子	大妻女子大学
	内村 理奈	日本女子大学
	大川 知子	実践女子大学
	深津 裕子	多摩美術大学
学会誌編集 作品編	佐久間 恭子	女子美術大学
	大網 美代子	大妻女子大学
	大崎 綾子	女子美術大学
	岡田 宣世	女子美術大学
会 報 編 集	森下 あおい	滋賀県立大学
	玉田 真紀	尚絅学院大学
	馬場 まみ	京都華頂大学
監 事	池田 節子	(元)相模女子大学
	萩原 延元	(元)川村学園女子大学

2016 (平成28) 年度 第17回服飾文化学会大会の報告

平成28年度 服飾文化学会 第17回大会・総会は、5月7日(土)・8日(日)の二日間にわたり、東京都渋谷区にある文化学園大学(旧文化女子大学)にて実施されました。

快晴の下、正会員94名、非会員7名、学生会員7名、学生非会員6名の合計114名の皆様ご参加下さいました。以下はその報告です。

1. 研究口頭発表、作品・ポスター展示発表

研究発表件数は、口頭発表10件、作品展示発表12件、ポスター展示発表2件、合わせて24件でした。

能澤慧子会長の開会の辞に続き、口頭発表が行われ、7日は7件、8日は3件、活発な質疑応答が見られました。作品・ポスター展示発表は、制作者の意図を理解するためにパワーポイントを用いたショートスピーチが各6分行われ、この形式は5年目を迎えました。8日の昼食後、展示前では熱心な質疑応答が行われました。

2. 特別講演

元ポーラ文化研究所主任学芸員の津田紀代氏による講演「色彩からみる日本の化粧文化－赤白黒の伝統美から色彩の現代美へ－」は、研究発表と同じ会場において一般公開の形で実施されました。



研究口頭発表会場の様子

氏は長年にわたる東西の化粧文化、装身具文化史、美人論の研究および出版、関連展覧会の企画を行い、『華やぐ女・ロココ～アールデコの化粧』、『あそぶかたち・20世紀の香水瓶』、『化粧史文献資料年表』、『モダン化粧史』、『日本の化粧』(単・共著、ポーラ文化研究所)等とたくさんの著書を執筆され、「華やぐ女・ロココ～アールデコの化粧」「ヘアモードの時代」「東西のよそおいの箱」(ポーラ美)ほか多くの展覧会を手掛けられました。

講演は「よそおい」「化粧」の定義に始まり、色彩から日本の化粧文化史を辿り、豊富な画像資料が紹介されました。まず、生命の色：赤、純潔・高貴の色：白、不変の色：黒、原始・古代にみる化粧の萌芽、海外文化との関連が述べられました。次に江戸時代に完成した赤白黒化粧の特徴、色の役割や化粧法、儀礼との関わりに触れられました。近代は西洋との交流によって変化した化粧文化、白色から肌色化粧へ、色彩が萌芽した化粧美が解かれました。最後に第二次世界大戦後～現代は、欧米との接触によって激変した化粧文化、ネイルアートや美白、アイメイクなど多様化する化粧の動向が指摘され、興味深い内容に時間が惜しまれる思いでした。当日は色彩文化研究会の先生方も聴講され、盛会裡に終了しました。

3. 博物館見学

文化学園服飾博物館「ヨーロッパン・モード」展を7日に各自で見学しました。



特別講演での津田紀代先生

展示内容：宮廷が優雅な流行を生み出した18世紀のロココ時代から、産業の発達や社会の成熟とともに変化した19世紀を経て、若者や大衆が多様なスタイルを流行させた20世紀末まで、ヨーロッパを発信元とする約250年の女性モードの変遷を、その社会背景とともに紹介。また、特集として20世紀を代表するデザイナー、イヴ・サンローランを取り上げる。ディオールの後継者としてデビューした1958年当時、活動的で新しい女性の美を打ち出した60年代、現代的なエレガンスを追求した70、80年代を振り返る。

4. 懇親会

初日7日の夕刻、大学20階のスペース21にて懇親会が開かれました。おかげさまで、45名のご参加がありました。特別講演の津田先生もご参加下さいました。

夕日に映える都庁を臨み、しばらく時間が経つのも忘れる思いのなかで和やかに始まりました。能澤慧子会長のご挨拶に続き、杉野服飾大学の塚田耕一理事のご発声による乾杯。司会は文化学園大学の水谷みつ江理事で、新入会員が紹介されました。夏期セミナーのご紹介、蔵方宏昌先生による本学会の歩みなどに耳を傾け、すっかり宵闇迫る頃に閉会となりました。

5. その他

展示作品はカメラマンの末正真礼氏により撮影されました。



作品・ポスター展示発表会場の様子

開催校には多くの本学会正会員が所属しており、全員のご協力を頂きまして、無事に終了することができました。皆様に深く感謝申し上げます。
(大会実行委員長 福田博美)

第17回大会・総会プログラム

<5月7日(土)>

・開会の辞 13:30~13:35

服飾文化学会 会長 能澤 慧子

・口頭発表 13:35~15:20

❖座長 塚田 耕一(杉野服飾大学)

A-1 肩パッドという過剰

立命館大学大学院 古田 賢

A-2 シャルル・フレデリック・ウォルト
ーパリ・モードの近代化ー

神戸大学大学院 竹松 可奈子

A-3 1920-1930年代の新聞、雑誌に見られる
中国服の流行ー女性と子供を中心にー
大阪大学大学院 劉 玲芳

❖座長 長崎 巖(共立女子大学)

A-4 明治期のメディアにみる装い指南
ー『女学雑誌』における木村熊二の提言ー
滋賀短期大学 戸田 賀志子

A-5 「耳かくし」の流行とその系譜

元文化学園大学大学院 上野 邦子

❖座長 藤田 恵子(東京家政学院大学)

A-6 玉木学園創始者 玉木リツ氏の長崎における
女子裁縫教育ー明治から昭和初期の
遺品、教科書と裁縫雛形を通してー



懇親会(夕暮れの新都心を背景に・・・)

長崎大学 非常勤講師 砂崎 素子
A-7 オートクチュール・ドレスの造形研究
-1950年代のディ・ドレス-
杉野服飾大学 ○安部 智子 森 淳子
水野 真由美

・特別講演 15:30~17:00

演題:「色彩からみる日本の化粧文化
-赤白黒の伝統美から色彩の現代美へ-」

講師:津田 紀代 氏

(元ポーラ文化研究所主任学芸員)

・総会 17:10~17:40

・懇親会 17:50~19:30

<5月8日(土)>

・口頭発表 9:30~10:15

♣座長 福田 博美(文化学園大学)

B-1 文化史的観点による振袖の解釈について
元共立女子大学大学院 石渡 桃子

♣座長 大川 知子(実践女子大学)

B-2 民俗芸能衣装の研究・調査
-国重要無形民俗文化財「根子番楽」-
文化学園大学 角谷 彩子

B-3 卒業式の袴着装における色彩調査
-カタログ2誌を中心に-

共立女子大学 ○瀬川 かおり 大塚 絵美子
田中 淑江 谷川 紗織 宮武 恵子

・作品展示ショートスピーチ 10:20~11:48

♣司会進行 水谷 みつ江(文化学園大学)

C-1 教育的視覚効果を上げるための東帯の
レプリカ制作

和洋女子大学 ○伊藤 瑞香 羽生 京子
仲村 洋子

C-2 和服地のマテリアルリサイクル -「ノ
クシカタ」を用いたデザインの試み-
東京家政学院大学 松本 幸子

C-3 古着物を利用した現代服の制作
文化学園大学 高木 幸子

C-4 「マドレー染」のドレス -復活した京
都の希少染色技法糊流し染を活用して-
京都女子大学 青木 美保子

C-5 マクラメ編みの基礎研究
-平結びの要尺について-

文化学園大学 井上 昌恵

C-6 オートクチュール刺しゅうを用いたミ
ニドレス制作

文化学園大学 坂野 あかね

C-7 刺繍ミシン活用の可能性

文化学園大学 加藤 淳之介

C-8 副資材を使用した装飾技法について
-ハトメを使用したデザイン発想-

文化学園大学 小出 恵

C-9 西洋服飾史の技術と構造に関する研究(4)
-1810年代後半から20年代前半制作の
ルダングト-

東京家政大学 ○倉 みゆき 能澤 慧子

C-10 システムパニエ
-バスルへの応用型-

東京家政学院大学 富田 弘美

C-11 Fashion Illustration'16
-Super Gradation Method for Fashion
Illustration-

文化学園大学 長沢 幸子

C-12 機能美に特化したユニバーサルファッ
ションのデザイン・設計II

大妻女子大学 大網 美代子

・ポスター展示ショートスピーチ

11:48~11:54

♣司会進行 水谷 みつ江(文化学園大学)

D-1 衣服におけるバリアフリー
-身障者と健常者が共有できる服-

大妻女子大学 大網 美代子

D-2 「おはしより」の形成過程

文化学園大学 福田 博美

・昼食 12:00~13:30

・作品・ポスター展示の説明・質疑応答

13:30~14:40

C-1~C-12、D-1・2の各作品・ポスター
前で発表者が説明

特集記事 展覧会「こどもとファッション」展について

能澤 慧子（東京家政大学）

平成28年7月16日から8月31日まで、東京都庭園美術館にて18世紀後期から20世紀初期までのヨーロッパのこども服と、明治時代から第二次世界大戦前までの日本のこども服の展覧会が開催された。今年2月から島根県立石見美術館、4月から神戸ファッション美術館で開催された同展の巡回展である。

20世紀後半になるまで、こどもたちは概して自分で着るものを選ぶことはなく、大人が選んだものを着せられていた。こどもが着た衣服の歴史は、大人の抱いたこども観の歴史であり、またそれを含んだ社会の鏡でもある。同展は歴史的こども服（ヨーロッパ30点、日本28点）と、絵画、ファッション・プレート、ポスターなどのこどもやこども服を描いた多様な図像、また人形や玩具、絵本などのこどもをめぐる文化資料を合わせて、180余の資料を展示し、こどもがどのように捉えられ、愛されてきたのかを見つめなおそうとするものであった。

例えば、大人の服装の雛形のようなこども服やスカートのついた幼い少年用ドレスの愛らしさの背後に、「こども」や「こども期」の無視や、性のないこども期を少年にのみ認めるジェンダー観など、19世紀の大人社会の意識が汲み取れよう。

展示内容は、順路に従って下記のとおり。

1. こども服の示すこと
2. 1800～1880年代
3. 1910～1920年代 先駆けるこども服
4. ファッション・プレートの世界
5. 明治時代 「学校」と「家庭」の誕生
6. 大正時代 洋裁への憧れ
7. 大正時代から昭和時代前期 「純粹無垢なこどもたち」
8. こどもの不在
9. 1730～1780年代 〈こども服〉の誕生
10. 1870～1890年代 こども礼賛
11. 1890～1920年代 こどもの解放
12. 大正時代から昭和時代前期 洋服着用の一般化

衣服のなかでも特にこども服は消耗しやすく、現今までの伝承の例は極めて少ない。本展の中心となったのは、ヨーロッパは藤田真理子氏、日本は長野県須坂市の田中本家博物館所蔵の貴重なコレクションである。

展示作品は、一部を除いて先行二館と同一であるが、庭園美術館というアール・デコ様式の、かつての居住空間を使った展示では、あたかも生きた人のようにフロアに立つ衣装を着たマネキンたちの間に、こどもたちの声を聴いたような錯覚を覚えたのは、筆者のみではないだろう。



「こどもとファッション」展 会場風景 於東京都庭園美術館

2016年度 第15回夏期セミナーの報告

今年度の夏期セミナーは平成28年8月17日(水)～19日(金)の2泊3日の日程で、島根県の益田市・大田市・出雲市・松江市にて実施されました。台風の影響が心配されましたが当日は快晴に恵まれ、予定通りの開催となりました。

第1日目 8月17日(水)

島根県立石見美術館に集合し夏期セミナーが始まりました。この美術館は、伝統的な石州瓦約28万枚も張り巡らされた文化複合施設「グラントワ」の中にあります。学芸課長の南目美輝氏によるコレクション展「ドレスの楽しみ」のレクチャーの後に、ヴィオネ、ディオール等による華やかなドレス、また石見美術館との所縁が深い森英恵のドレスをじっくりと見学しました。

夕方からフレンチレストラン「ボンヌママンノブ」に移動し、懇親会が開催されました。服飾文化学会 能澤慧子会長のご挨拶に続き、伊藤一郎先生が乾杯のご発声をされて会が始まりました。地元の新鮮な食材を使った本格的なフランス料理を頂きました。夕刻には日本海に沈む素晴らしいサンセットに感嘆の声が上がりました。

第2日目 8月18日(木)

ホテルでの朝食後、貸切バスで出発して石見銀山に到着しました。まず石見銀山世界遺産セン



コレクション展「ドレスの楽しみ」

ターを訪れ、採掘方法や道具を見学、30kgの銀塊に触るなどして当時の銀山の様子を学びました。その後移動し、古い街並みが国の重要伝統的建造物群指定となっている大森地区を散策しました。この地区で最も大きな商家であった熊谷家では、当時の衣類や生活用具などの展示もあり見所が多くありました。石見銀山資料館の見学後、隣接の「お食事処おもり」にて名物の出雲そばの昼食を頂きました。

午後はまたバスに乗り出雲大社に向かいました。到着後、大鳥居を抜け参道で手を清めて境内に進みます。神楽殿の日本一の大注連縄にはただ圧倒される思いでした。また境内を参拝している間、周囲の深い木立から時折、風が吹き抜け荘厳



島根県立石見美術館にて南目学芸課長と



懇親会

な気配に包まれました。参拝後は有名な門前町を自由に散策・休憩してから島根県立古代出雲歴史博物館へ移動しました。学芸員から説明を受け、企画展「いわみもの」では名産の石見焼・石州瓦・和紙の展示を見学しました。また中央ロビーに展示された宇豆柱、出雲大社本殿の模型、大量の青銅器に神話の世界に引き込まれました。見学後はツインリープスホテル出雲に移動し、夕食は自由行動でお勧めのお店に行かれた方も多かったようです。

第3日目 8月19日(金)

最終日はバスで長田染工業へ向かいました。出雲地方では明治以前より筒描藍染の風呂敷等を嫁入道具としていました。最盛期には数十軒の紺屋さんがありましたが、現在ではこちらの1軒となり島根県指定文化財として登録されています。工房では四代目長田茂伸さんが、筒糊を滑らかに扱う熟練の技を披露し、皆さん見入っていました。

再びバスに乗り込み松江市の島根県立美術館に向かいました。宍道湖の湖畔のカーブに沿う優美な建造物で、絵画・彫刻・工芸・写真などの優れたコレクションで山陰最大の規模を誇る美術館です。学芸員の國井悠氏の解説後、企画展「日本工芸の100年」にて明治時代の工芸作品や山陰ゆかりのバーナード・リーチ等の作品を堪能した後、5つの会場からなる常設展を思い思いのペースで見学しました。昼食は館内にあるレストラン「リ



長田染工業にて藍染の見学

ストランテ ヴェッキオロツ」で取り、松江駅に向かうバスの中で解散式となりました。

なお、参加者は学生1名を含む23名でした。

(夏期セミナー担当委員 中川麻子)

第17回(平成28年度) 夏期セミナー スケジュール

8月17日(水)

- 15:00 : 島根県立石見美術館集合・受付
- 15:05~17:30 : 開会、館蔵品の展示見学
南目美輝学芸課長の講演
- 18:00~20:00 : 懇親会「ボンヌママン ノブ」
- 20:30 : 益田グリーンモーリスホテル到着

8月18日(木)

- 08:00 : ホテル出発(貸切バス利用)
- 08:45~09:00 : 道の駅サンピコごうつにて休憩
- 10:00~10:45 : 石見銀山世界遺産センター見学
- 10:45~12:30 : 大森地区を散策し、石見銀山資料館(代官所跡)見学
- 12:30~13:15 : 昼食「お食事処おおもり」
- 14:45~16:15 : 出雲大社着。参拝・散策
- 16:30~17:30 : 島根県立古代出雲歴史博物館見学
- 18:00 : ツインリープスホテル出雲到着
フリータイム

8月19日(金)

- 09:00 : ホテル出発(貸切バス利用)
- 09:15~10:15 : 長田染工業(出雲市大津町)藍染の祝い風呂敷製造作業場を見学→バスで移動
- 11:30~13:20 : 島根県立美術館見学
昼食は館内レストラン
- 13:30 : バスで閉会・解散

会計報告

①服飾文化学会 平成27年度収支決算書(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

項目	予算	決算	増減率(%)	備考
収入				
(1)年会費	1,311,000	1,569,000	258,000	H28 6,000 × 1 H27 6,000 × 211 - 3,000 × 13 H26 6,000 × 27 - 3,000 × 1 H25 6,000 × 9 H24 6,000 × 1 H23以前 6,000 × 5 - 3,000 × 1 2,000 × 11 - 500 × 5
(2)入会費	10,000	13,500	3,500	
(3)年間講読料	54,000	69,000	15,000	0.000 × 23
学会誌	450,000	512,000	62,000	Vol.16 (掲載料), 3,000 × 7 (寄費通信費)
(4)論文編集掲載料	400,000	311,000	△ 89,000	Vol.18 (掲載料), 3,000 × 8 (寄費通信費)
(5)作品編集掲載料	0	1,633	1,633	料子 1633
その他	0	0	0	
繰越金	318,291	0	△ 318,291	
財政調整積立金	236,709	0	△ 236,709	
収入計	A	2,780,000	2,476,133	△ 303,867
支出				
(1)経費				
1)総会運営費	150,000	150,000	0	
学会誌	650,000	592,442	△ 57,558	
2)作品編集発行費	700,000	714,328	14,328	
3)事務管理経費	200,000	119,200	△ 80,800	
4)通信費	110,000	52,321	△ 57,679	
5)会報発行費	150,000	123,236	△ 26,764	会報No.30,31
6)事務用品費	70,000	51,823	△ 18,177	
7)会費	10,000	24,000	△ 46,000	
8)交通費	50,000	4,060	△ 45,940	
9)経費	10,000	6,912	△ 3,088	大会開催校への平土産
(2)事業費				
1)事業費A	60,000	8,728	△ 51,272	研究例会
2)事業費B	160,000	133,675	△ 26,325	論文発表会
3)事業費C	40,000	64,689	24,689	寄費
4)事業費D	200,000	266,008	66,008	名簿作成費
(3)広報費	160,000	68,602	△ 91,398	ホームページ作成費を含む ※第17年度シンポジウム開催費
(4)予備金	0	5,216	5,216	
支出計	B	2,780,000	2,385,640	△ 394,360
収支差額	A-B	0	90,493	
次年度繰越金		0	90,493	

②服飾文化学会 平成27年度財政調整積立金収支報告書

項目	収入	支出	残高	備考
前年度繰越金			1,269,703	
大会・総会剰余金	87,515			
夏期セミナー補助金		68,950		
			1,288,268	
服飾文化基金	1,000,000			H21年度
			2,000,000	H22年度

③服飾文化学会 平成28年度収支予算書(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

項目	予算額	前年度	前年度との増減(△)	備考
収入				
(1)年会費	1,311,000	1,311,000	0	
(2)入会費	10,000	10,000	0	
(3)年間講読料	54,000	54,000	△ 3,000	3000 × 17
学会誌	450,000	450,000	0	
(4)論文編集掲載料	400,000	400,000	0	
(5)作品編集掲載料	0	0	0	
その他	0	0	0	
繰越金	90,493	318,291	△ 227,798	
財政調整積立金の取崩し	163,507	236,709	△ 73,202	
収入計	2,476,000	2,780,000		
支出				
(1)経費				
1)総会運営費	150,000	150,000	0	
学会誌	650,000	650,000	0	
2)論文編集発行費	700,000	700,000	0	0.1万円高増減(2万円引き含む)
3)作品編集発行費	150,000	150,000	0	東京・イオン・デパート・デパート(2万円引き含む)
4)事務管理経費	200,000	200,000	0	
5)通信費	110,000	110,000	△ 10,000	
6)会報発行費	150,000	150,000	0	
7)事務用品費	70,000	70,000	0	
8)会費	50,000	70,000	△ 20,000	
9)交通費	50,000	50,000	0	研究・研修・交通費(東京・上野・2000円)を含む
10)経費	10,000	10,000	0	
(2)事業費				
1)事業費A	60,000	60,000	0	研究例会
2)事業費B	160,000	160,000	0	論文発表会
(3)広報費	120,000	160,000	△ 40,000	ホームページ作成費を含む
(4)交流費	6,000	0	6,000	第17年度シンポジウム開催費
支出計	2,476,000	2,540,000		前年度・運営・名簿作成費
収支差額	0	24,000		

④財政調整積立金及び服飾文化基金の増減

	H27年度末残高	当期増加額	当期減少額	当期残高
財政調整積立金	1,288,268	0	163,507	1,124,761
服飾文化基金	2,000,000	0	0	2,000,000

※H27年度より特別会計の名称を財政調整積立金と変更

****事務局より****

●新入会員(平成27年9月～平成28年8月)

正会員

宮本	いづみ	(高知県立高知城歴史博物館)
水野	真由美	(杉野服飾大学)
野本	智恵子	(文化学園大学)
瀬川	かおり	(共立女子大学〈非〉)
町田	秀子	(東北女子短期大学)
織田	奈緒子	(和洋女子大学)
佐々木	麻紀子	
久保寺	恭子	(文化ファッション大学院大学)
杉村	祐貴子	
学生会員		
竹松	可奈子	(神戸大学大学院博士前期課程)
石渡	桃子	(共立女子大学大学院博士前期課程)
四戸	菜穂	(共立女子大学大学院博士前期課程)
劉玲	芳	(大阪大学大学院博士後期課程)
小池	しずか	(日本女子大学大学院修士課程)

●退会者(平成27年度末)

鈴木	正文	伊藤	藤上	渚
谷	祥子	尾上	裕美	望美
伊地知	美知子	権久	川本	希弓
石井	美恵	久山	本	圭井
塩原	みゆき	山石	川	千加
木村	愛子	佐木	山	直子
高橋	晴子	松		
安城	寿子			
石関	亮			

青山学院女子短期大学図書館
全国大学生活協同組合連合会図書サービス

*****研究例会のお知らせ*****

日時:平成28年10月29日(土)13:30～16:10
会場:お茶の水女子大学 大学本館3階306室
テーマ:「ファッション展とアート・ミュージアム」
講演題目:「オートクチュール展とウォルトの受容再考ーペルタン、ディケンズを通してみるウォルト」
岩瀬慧氏(三菱一号館美術館学芸員)
講演題目:「パナソニック汐留ミュージアムのファッション展と生活文化展」
宮内真理子氏(パナソニック汐留ミュージアム学芸員)
皆様ふるってご参加ください。

◇◇◇◇◇展覧会のお知らせ◇◇◇◇◇

■共立女子大学博物館 開館記念展
「三百年がはぐくんだ服飾美ー江戸女性のきものー」
会場:共立女子大学博物館
会期:10月10日(月・祝)～12月2日(金)
休館日:日曜、祝日(10月10日を除く)、および10月14日・17日・18日
開館時間:9時30分～16時30分(土曜は12時まで)
入館料:無料
記念講演会:10月22日(土)14:00～15:30
「かくも美しききものたちー江戸時代の華麗なファッションー」
講師 長崎巖(共立女子大学博物館長)

*****近著紹介*****

- ☆『フロックコートと羽織袴』 小山直子著 勁草書房 2016年3月
- ☆『ヨーロッパ 服飾物語』 内村理奈著 北樹出版 2016年5月
- ☆『こども服の歴史』 エリザベス・ユウイング著 能澤慧子 杉浦悦子訳 東京堂出版 2016年8月

会報 No.32:2016(平成28)年9月30日発行

編集発行人:服飾文化学会

事務局:173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1

東京家政大学服飾史研究室

TEL:03-3961-8273

E-mail:nohzawa@tokyo-kasei.ac.jp

URL:http://www.fukusyoku-bunka-gakkai.jp